

ながさき子牛の飼育管理マニュアル

管理目標

- 3カ月齢までのえづけ飼料摂取量 が出荷体重に大きく影響します！
- 育成後期からの良質乾草多給 で、腹づくりができた発育良好な子牛を育てよう！

出荷目標

- 去勢：日齢270日(9カ月齢) 体重310Kg 日齢体重 1.15Kg/日
- めす：日齢280日(9.3カ月齢) 体重290Kg 日齢体重 1.04Kg/日

6カ月までは濃厚飼料重視

その後は良質乾草多給重視

月 齢	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
日 齢	0	30	60	90 105	120 135	150 165	180 195	210	240	270	300
去勢	体 高 の 目 安 (cm)	75	82	89	94	98	100	104	108	112	115
	体 重 の 目 安 (kg)	35	65	90	120	150	185	220	255	285	310
	え づ け 飼 料	0.2	1.0	2.0	3.0 1.0	飼料の切り替えは10日以上かけてゆっくりと					
	育 成 飼 料		1週間目から給与		2.5	3.5 4.5	4.5 4.5	4.5 4.5	4.0	4.0	4.0
	良 質 乾 草		0.1	0.2	0.3 1.0	1.0 1.5	2.0 2.0	3.0 3.0	3.5	4.0	4.5
	稲 わ ら		良質乾草:チモシー・オーツヘイ・イタリアン乾草						0.1	0.5	0.5

月 齢	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
日 齢	0	30	60	90 105	120 135	150 165	180 195	210	240	270	300
めす	体 高 の 目 安 (cm)	68	76	83	89	94	99	103	106	109	112
	体 重 の 目 安 (kg)	30	50	70	95	120	150	180	215	250	280
	え づ け 飼 料	0.2	1.0	2.0	3.0 1.0	飼料の切り替えは10日以上かけてゆっくりと					
	育 成 飼 料		1週間目から給与		2.0	3.5 4.0	4.0 4.0	4.0 4.0	3.5	3.5	3.5
	良 質 乾 草		0.1	0.2	0.3 0.5	0.8 1.5	1.8 2.0	2.5 3.0	3.5	4.0	4.0
	稲 わ ら		良質乾草:チモシー・オーツヘイ・イタリアン乾草						0.1	0.5	0.5

飼料給与量は目安です！ 子牛の発育状況に応じ増減する場合は、濃厚飼料と良質乾草の給与割合を守りましょう！

【注目】えづけ飼料による3か月齢時点の第1胃の変化



①ミルクのみ

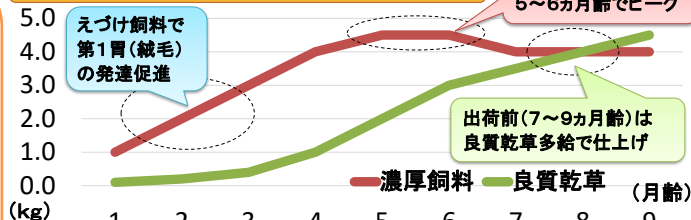
②ミルク+乾草

③ミルク+乾草+えづけ飼料

⇒ ①、②ともに絨毛の発達が不十分

⇒ ③は絨毛の発達が十分
発育良好が期待される

濃厚飼料と良質乾草の給与パターン



濃厚飼料は
5～6か月齢でピーク

出荷前(7～9か月齢)は
良質乾草多給で仕上げ

【重要】
飼料の
給与割合

3か月齢までの割合
えづけ：乾草
⇒ 9 : 1

4～6か月齢の割合
濃厚飼料：乾草
⇒ 7 : 3

7か月齢以降の割合
濃厚飼料：乾草
⇒ 4 : 6

発育ステージごとの飼育管理

初 期 (生後～3か月齢 最重要管理期)	中 期 (4～6か月齢 発育促進期)	後 期 (7か月齢以降 腹づくり・出荷調整期)
生時体重測定	去勢・離れの別飼い (4ヶ月齢から)	出荷準備
初乳給与	去 勢 (4～5ヶ月齢)	毛刈やブラッシング
えづけ開始 (生後1週間目から)	鼻環の装着	削 蹄 (出荷1ヶ月前)
給水開始	駆虫	予防接種 (五種混合ワクチン)
駆虫	獣医師へ相談	
獣医師へ相談		

飼育管理の抑えよう！ポイント

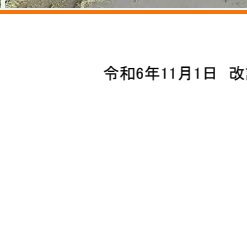
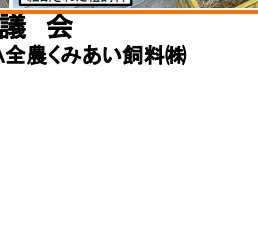
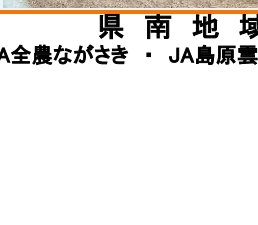
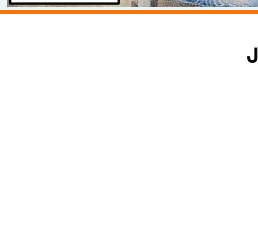
1. 疾病対策・下痢予防

- ◎ 分娩後1時間以内には、初乳を飲ませる。
- ◎ 敷料は多めに敷き、腹が冷えないように。特に冬季は換気に注意し、すきま風を防止する。また、ヒーターやカーフジャケット、ネックウォーマーなどを活用し、保温する。
- ◎ きれいな水を飲めるようにする。
- ◎ こまめな清掃と乾燥、消毒を徹底する。
- ◎ 生後1～2週間(目安)は、分娩室で親子を飼う。



2. 制限母子分離(哺乳期の飼料給与) 生後1週間から給与開始！

- ◎ 子牛専用の飼槽を設置し、濃厚飼料と柔らかい良質乾草を細断して与える。
- ◎ 生後1ヶ月齢以降は母乳だけでは栄養不足。別飼い飼料と水が必須。
- ◎ 手やりやフスマ添加などを行いえづけ飼料に早く慣れさせることで、その後の食い込みが増加する。第1胃発達は、濃厚飼料と粗飼料の両方が必要！濃厚飼料が第1胃の養分吸収力を高め、粗飼料が容積を拡大させる。
- ◎ 良質乾草が確保できないときは、ビタミン補給のため、青刈りの牧草またはヘイキューブを若干給与する。
- ◎ 固形塩を常備する。



県南地域和牛改良協議会

JA全農ながさき・JA島原雲仙・JAながさき県央・JA全農くみあい飼料㈱

令和6年11月1日 改訂